

## 首里城扁額製作検討委員会 第2回 【議事概要】

日時：令和5年3月2日（木）14：00～16：30

会場：沖縄県教職員共済会館 八汐荘

### 1. 今年度・今後のスケジュールについて【資料1】

- なかなか厳しいスケジュールであるが、今年度が大きなステップになり、それを踏まえて試作品を作ることで確実な見通しが立つと思う。資料の通り進めてよい。

### 2. 仕様検討の基本的な考え方について【資料2】

- 台湾事例というのは、台湾の職人による台湾の仕様のことではなく、皇帝御書を扁額に仕立てるという中国全体に共通する仕様と捉えて参考にした方がよい。
- 台湾事例をどう扱うかであるが、主に木の組み方とか彫刻の仕方について実際に製作しているのは琉球の職人なので彼らが作った扁額を基本的には参考にして、それでも不明な点については台湾事例を参考にするということである。台湾事例が参考になるのは大型であることで、このように大型のものは琉球事例では現存していない。このような理由からステップ1から4の順が適切と考える。
- 尚家文書の他に、今回の復元において重要な参考事例として、琉球王家・王府関連製作物がある。この中には琉球扁額で王府に関連する「致和」扁額も含まれるが、同扁額は後の時代の修理が入っていて、最初の予想よりは参考になる部分は少なかったという印象である。
- 「致和」は塗膜が殆ど剥落していたが、文字の肉取りや地板の際の部分に顔料が残っていたので、彩色の参考にはなると考える。局所的ではあるが、際には色漆であろうアクセントがあったことが見つかったので、その点は共通して参考になると思っている。
- 今回復元する扁額は幅が3メートル以上もある大型である。「致和」も熟覧したが塗膜が剥がれていることや布着せがされていないことが確認され、髹漆では参考にならないと思う。一方、木工からすると木地構造が参考になるが、額縁と吸付棧と地板の組み方について、木工側と髹漆側で見解が噛み合わない部分も出ていた。

### 3. 共同作業場について【資料3】

- 作業場は浦添市役所に近く見学者が駐車場を利用できる可能性があるのですが、県は浦添市に協力要請を求めていますどうか。
- 作業場となる物件の広さは、前回製作時の首里城付近にあった作業場の広さはどのくらいか。  
⇒前回は100㎡で、それよりも広くなる。
- 基本的には塗り・研ぎの作業をする場所と理解して宜しいか。

⇒主として髹漆・加飾の作業をする予定にしている。それ以外については、ここで可能な作業であれば必要に応じて使用することとしている。

- 図面中にあるカーテンレールはどのようなものか。天井の養生はどうするのか。  
⇒扁額が収まる大きな漆室を設けることができないので、部屋自体をビニールカーテンで仕切って漆を乾かす仕様で、髹漆技術者にも確認済みである。前回製作時もこのような方法をとっていた。天井の養生については、天井板が石膏ボードであるので、柱間のコンクリート梁の下にレールを打ち込み、ビニールカーテンを下げて床まで仕切るようにする。

#### 4. 扁額仕様について【資料4】

##### ①扁額構造、木工・木材について

- 木工の「継手・仕口の接着」について、木工側の立場からは、額縁に吸付棧を固定しないと強度的に難があるので接着した方がいいという意見が出た。その一方で髹漆側の立場からは、そこを接着すると額縁に嵌っている地板までが接着されるか或いは動きが窮屈になるのではないかという意見が出た。このような両者の意見について、伺いたい。木工側としては吸付棧と額縁は固定するが、吸付棧は地板の蟻溝に通すだけで地板が横滑りできるようにするという方針であるが、これでもよいか。
- 木工でどうしても吸付棧を固定したいというならそれでも構わない。地板が自由に動くことが確保されていればよい。吸付棧を額縁と接着する時に、膠などの接着剤が付着すると固定されてしまうのを懸念している。
- 地板は両面ともに布着せをするが、裏面の吸付棧の通る蟻溝部分は布着せをしないこととする方針である。
- きちんと地板の自由が確保されていればよい。地板が多少反るのは構わないが、亀裂が生じることがあってはならない。
- 木工側では、吸付棧を額縁枠の構造を補強する材と考えているが、今の条件であれば両方の整合が図れるものと思う。  
⇒資料の通り進めることとする。

#### 5. 製作工程手順について【資料5】

- 地板と額縁の枠を接合してから地板の裏側に布着せを行うわけだが、先ほどの話と関連させると、地板が吸付棧に接着しないので、接合の後布着せを行うとくっつく可能性があるのではないかと。要するに地板は表面も裏面も仕上げしてから吸付棧に嵌めるべきではないかと思うがどうか。
- 同じ考えである。また、地板の表面と裏面の布着せする時期の間隔を開けると材が反る可能性があるため、時期はずらさない方がよい。組み立て後はふくり帰塗のみがよい。
- 地板も表裏は布着せをして、表のみを三辺地付けをする。裏の布着せ後、目摺りまでは

進める必要があると思う。

- 目摺りの後は、手跡が付くので拭き取れるように漆固めまでやること。
- 題字の工程について、上塗りの次に金薄磨となっているが、金箔貼りの工程もきちんと入れること。箔貼りをしてその上に透漆がけをすることが金薄磨である。題字の上塗り、金箔の下塗りが黄色漆になると思うのでそこも明記した方がよい。  
⇒ご意見を踏まえ、工程手順を修正する。
- 宮古上布の調達はなかなか難しいとの話があった。事務局では場合によっては麻を代替材として用いる考えがあるとの説明だったが、その方向で進めてよいか。  
⇒宮古上布自体が稀桐板齊（トンビャンサイ）の代替であり、今回の復元では宮古上布の代替材として何を用いるかを決めて明記しておけばよい。

以上